



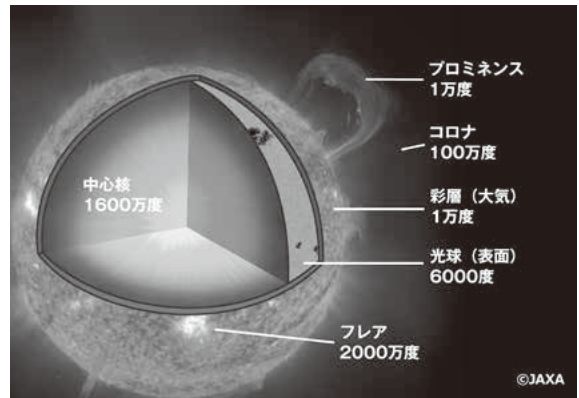
天文学の扉を開こう

5月の夜空

太陽コロナの謎

巷では連日新型コロナウイルスのニュースが取り上げられていて、ぐんま天文台でも感染症拡大防止のため臨時休館が続いています。そもそも、コロナウイルスの「コロナ」ってなんなんでしょう？ 電子顕微鏡でコロナウイルスを見ると、膜に覆われた表面に突起のようなものが出ているのが見えます。この突起が王冠(ラテン語でコロナ)のように見えることから、「コロナウイルス」という名前が付いたそうです。

星座にも「かんむり座」と「みなみのかんむり座」という星座があって、それぞれコロナにちなんだ学名がつけられています。しかし、天文学で一番なじみ深いコロナと言え、太陽のコロナではないでしょうか。



太陽コロナは、太陽の高層大気のもっと外側にある、100万度を超える希薄なガスの層です(図参照)。普段は、太陽の表面である光球や、低層大気である彩層からの光が強いため見ることはできませんが、皆既日食の際やコロナグラフと呼ばれる機器を使うことで観測できます。ぐんま天文台では、通常、太陽望遠鏡を使った太陽の投影を行っているのですが、コロナグラフはないため、残念ながらコロナを直に見ることはできません。

不思議なことに、コロナは100万度以上と極端に高温なのに、太陽の表面は6,000度ほどしかありません。よく「冷たいストーブの上でやかんが沸騰している」などとたとえられるこの謎の現象、その原因は現在でもはっきりとは分かっていません。一説には、太陽表面の運動によりひき起こされた波が衝撃波となって温度を上げているとか、また、コロナ中の小さな爆発現象が温度を上げているなど、いろいろな説が唱えられています。

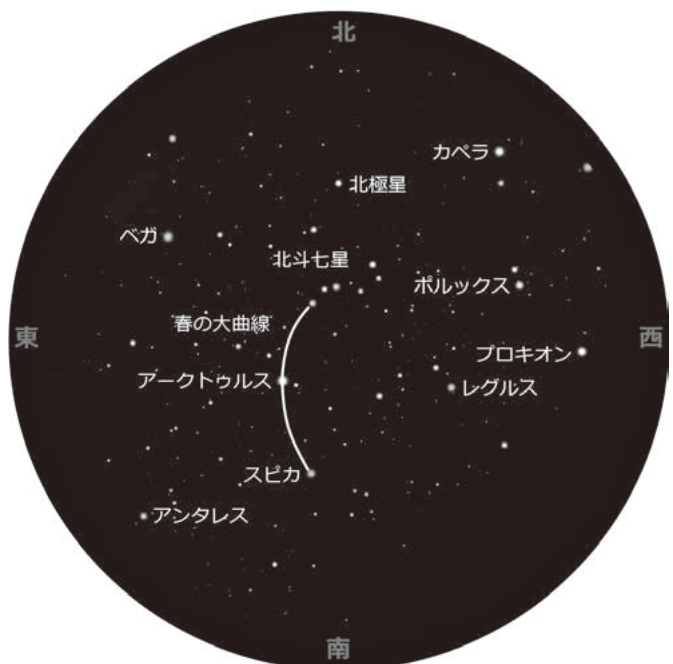


5月のぐんま天文台のイベント

・新型コロナウイルスの感染拡大防止のため
臨時閉館中

○星図の説明

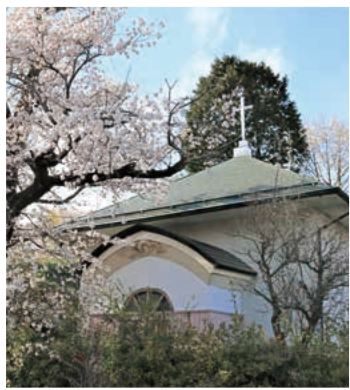
5月15日午後9時の高山村の星空。
月初めの午後10時、月末の午後8時頃にも
同じ星空になります(「月」を除く)。



カメラ フォト
ショット



～ 4月の高山村～



名久田教会



八重咲の梅



すみれ



ムスカリ



※わが家のアイドル(6カ月～4歳未満)を常時募集しています。掲載を希望される保護者の方は、役場地域振興課へお電話ください。お待ちしております(※^_^) ☎26-7944(直通)



梅 沢 佐藤 愛優さん(2歳)

私の名前は「まゆ」です。

みんなから愛され優しい子に育てほしいと願いを込めて名付けてもらいました。

お人形のお世話遊びが好きで小さなお母さんはお家で忙しそうにお話しています。そんな私は2人のお兄ちゃんに囲まれながら我が家のアイドル♪

★まゆちゃんの事がみんな大好きだよ♡2歳のお誕生日おめでとう!! とママ。



緑のふるさと協力隊とは、特定非営利活動法人「地球緑化センター」が進めている、都市に住む若者を農山村に1年間派遣し、その地域でのさまざまな活動等に取り組んでいくプログラムです。

地域おこし支援隊とは、地域の新たな担い手を外部から確保することにより、地域力の維持・強化を図ることを目的とした総務省の地域づくり制度です。

今年で11代目となる緑のふるさと協力隊として、大阪出身の西山大樹さんが4月に着任し、5月から活動開始します。

西山さんは農村での暮らしや農畜産業に興味があり、緑のふるさと協力隊に応募したそうです。日々の生活を通して、村民の皆さまと交流を深めたいと思いますので、どうぞよろしくお願いします。

また、地域おこし支援隊の野口賢人さん、赤羽剛史さんも引き続き村内で様々な活動をしています。村内で見かけた際には、ぜひお声掛けください。

緑のふるさと協力隊着任

緑のふるさと協力隊ブログ <https://note.com/midorinodaiki>